

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版) 名古屋版(2021年8月) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JCHO中京病院建替整備工事	階数	地上9F
建設地	名古屋市 南区三栄一丁目301 外11筆, 港区 木場町1-2 外1筆	構造	SRC造
用途地域	近隣商業地域(一部工業地域)、準防火地域	平均居住人員	680 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2021年8月16日
敷地面積	35,676 m ²	作成者	
建築面積	4,569 m ²	確認日	2021年8月19日
延床面積	29,442 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.8

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> 患者を主体とした療養環境と移動負担の少ない環境の形成 効率的な運営を推進し、職員連携が活性化する環境づくり ライフサイクルコストを抑え、医療の変化に柔軟に対応できる建築 		<ul style="list-style-type: none"> 名古屋市内廃棄物の減量及び適正処理に関する条例を遵守。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 外皮の熱損失を抑制と、高効率な設備機器による快適な環境を実現 	<ul style="list-style-type: none"> 非常用発電機と無停電装置の設置の他、キュービクル屋上設置による浸水時停電リスクを低減し、電源設備の信頼性を向上 	<ul style="list-style-type: none"> 既存緑地帯の保存と敷地内適正緑化により、温熱環境の向上や資源の保護に配慮
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 屋根外壁の断熱性能の向上と、複層ガラス建具の採用により熱損失を抑制 全熱交換器による外気負荷の低減と、LED照明や高効率給湯器の採用により省エネルギー化を実現 	<ul style="list-style-type: none"> 有害化学物質を含まない材料採用と分別再資源化を考慮した構造により地球環境に配慮 自動水栓の採用により水使用量を削減 	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化対策への取り組みにより、LCCO₂=95%を実現

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

JCHO中京病院建替整備工事

- 使用評価マニュアル:
- 評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				2.9
LR1	エネルギー	2.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.4
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	3.6	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.5	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 2.9
2. 自然共生	評価点 = 3.4
3. 循環型社会	評価点 = 3.2

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。